

充実の「キャリアセンター」活用法

◇キャリアセンター誕生

今年4月、就職部がキャリアセンターに新しく生まれ変わった。

従来の就職部の仕事は、就職活動に関する情報提供や個人相談などであったが、キャリアセンターではそれに加え、1年次からキャリア形成のためのサービスを提供する。場所も従来の5号館下から、モノレール駅のすぐ側（グリーンテラス下）へ移転している。そこで、新しくなったキャリアセンターを訪ね、小林信武部長に直接話を聞いてみることにした。

小林部長は「キャリア」という言葉を生きた自分らしい生き

方」と訳す。このキャリアの形成こ

そが、今の学生にとって最も重要だという。加えて「学生たちを取り巻く社会状況は変わってきた。兄弟の少ない今のコドモは、社会性が育ちにくく、個人主義や利己主義が横行し、コミュニケーション不全を生んでいる。そのうえ偏差値教育で、自分の能力はここまで」との諦めの意識が育てられ、その範囲内で大学を選ぶことになる。そのような状況のもとで大学に入学してしまうと、自分の将来について積極的に考えることを避けてしまう傾向にあるようだ。2003年度卒業生の就職率は97・6%。しかし必ずしも希望の就

職先に就職できたというわけではない。それに今の社会では、4年制大学卒業者の32%が、就職して3年以内に短期離職してしまう。とりあえず大学院へ進学してみたり、目的意識なくフリーターへ逃避してみたり……。

しかし、学生だけを責めてはいけない。社会に貢献できる人を世に送り出す責任が大学にあると思っ「います」と小林部長はいう。社会人、そして生涯を見越した大学生活をサポートするためにキャリアセンターは動き始めたのである。

◇1年生の活用方法

今年入学した1年生は「キャリアデザインノート」を配布されたはずである。このキャリアデザインノートは、その名のとおり、自分の「キャリア」をデザインするために作られた書き込み式ノートで、前期・後期

1冊ずつ配られることになっている。大学生活とはナニかを書いた「キャ

リアデザインに関する記事」、自分を見つめ直すための「演習用のNote」、具体的イメージを提供する「先輩の体験談」の3つからなっている。

自らの目標設定や行動計画をサポートするために制作された、かなり強力なノートといえる。

演習は前期だけでも9コーナーあり、質問は「好きなもののリストアップ」など、簡単だ。でも答えづらい。それだけ自分探しは難しいのかもしれない。しかし1年生の人達は、なんとかノートを作成してほしい。2年生以上はきつとやらやましがらう。

「こんな便利なモノ、どーして早く作ってくれなかつたんだあ！」就職活動を控えた、あるいは今苦戦中の3、4年生の声が聞こえるようだ。

◇2年生以上の活用法

キャリアデザインノートは、キャ

リアセンタ―が今年から始めた試みなので、2年生以上の人はほとんど知らないだろう。それでは、2年生以上の人はどのようにキャリアセンタ―を利用できるのだろうか。具体的には講演会、OB・OG訪問、ワークショップやセミナーへの参加、そしてビジネスインターンシップの参加という手がある。特に講演会は、キャリアデザイン・サポートプログラム



一対一でいねいな個人相談も

ラムの一環として行われているもので、主に中大のOB・OGで、各方面に実務経験のある人を招き、さまざまな職業についての講演が行われている。今年の第一回キャリア講演会は「国際公務員への道」と題して実施された。プレ就職ガイダンスも行われ、就職についての基本的な知識を理解するという点で大いに有効である。

また市町村や企業で研修するインターンシップは、受け入れ先の状況によって異なるものの時期によっては海外での研修チャンスもある。インターンシップを受講することで、仕事に対する理想と現実のギャップを埋めることもできるのである。

特にオススメしたいのはキャリアセンタ―のホームページを絶えずチェックすることである。マスコミ志望者のページや公務員情報、キャリアセンタ―からのお知らせなど新しい情報は不定期にアップされる。また就職に関するページのリンク集

もある。何から手をついたらわからないという人には参考になる。ほかに、学生アドバイザーという既に企業から内定を得た学生の相談役もいるので、就職活動の実体験を聞くことができる。

◇今後のキャリアセンタ―

キャリアセンタ―は新しく生まれ変わった。しかし、まだ始まったばかりで、すべてがうまくいっているわけではない。学生のキャリアをデザインするという点で、今年入学してきたばかりの新入生から順に対処していくとのことである。しかし、就職を目前に控えた3・4年生には今までとどう違うのかが見えにくい。さらに学生数に対してキャリアセンタ―の職員数は少なく対応への限界も想像できる。今後の更なる改革に期待したいものである。

◇キャリアという意識を持つて！

今の大学生について小林部長はこ

んなふうに述べている。

「今の学生は自分の可能性を信じられなくなってきた。大学は自分の意志、行動、考えで成り立っているもの。勉強するのも社会にできるのも最後は一人一人の意志や行動が重要なんです。学生にはこの大学生活の時期を自分のアイデンティティーを確立する期間としてほしい。学生たちが社会にでて自分なりの生活をしていく、そのためのサポートをするのが私たちの役目なんです。ですから学生からのいろいろな意見があれば私たちは積極的に取り入れていきたいと考えています。いつでもキャリアセンタ―へ来てください。そして意見、要望、クレームをぶつけてください」

なんとなく過ごしては、時間はすぐ過ぎ去ってしまう。自分のキャリアデザインを考えると、それは、そう簡単なことではないはずである。

(学生記者 江部理恵 小野光雄)